



愛知県立美和高等学校

新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)

2023年度(令和5年度)実施報告書

We're

美和

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

みわこう マ イ ン ド
美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

愛知県立美和高等学校

校長 伊奈 和彦

本校は愛知県西部のあま市に所在しています。あま市は、戦国武将の福島正則や蜂須賀正勝を輩出した旧美和町、近代七宝焼の祖とされる尾張七宝が地場産業である旧七宝町、尾張四観音の一つである甚目寺観音が鎮座する旧甚目寺町が2010年（平成22年）に合併してできた町です。名古屋市に隣接しており、ベッドタウンとして発展してきましたが、田園風景が残るのどかな地域でもあります。

本校の開校は1983年（昭和58年）で、今年で41年目を迎えますが、生徒数が減少する中、学校の特色化や魅力化に取り組むことが必要と考え、数年前から学校の運営方針の軸に「地域活動」を据えるようになりました。更に2021年（令和3年）には、市や商工会、NPO法人、社会福祉協議会、大学、同窓会など、連携する団体と定期的に話し合う場として、美和高校地域連携センター『美和高マインド』を設立して連携を強め、**地域密着型の学校**として、地域と深く交流してきました。

2022年（令和4年）11月には、愛知県が進める「県立高等学校再編将来構想」に基づいて、本校が、地域の教育ニーズ対応した**連携型中高一貫校**となることが決まり、来年度から地域の中学校との連携を開始することになりました。そして、今年度（令和5年度）、文部科学省の「**新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）**」の指定校に採択されました。

普通科改革支援事業の事業内容としては、普通科改革の実現に資する先進的な取組に係る調査研究として、①特色・魅力あるカリキュラム及び教育方法の開発 ②関係機関との連携協力体制の整備、連携協力を担うコーディネーターの配置 があげられています。特に、②については、「地域社会学科においては、地域の行政機関又は事業者その他地域の活性化に資する活動を行う機関との連携協力体制を整備する」とされており、本校が『美和高マインド』を核として取り組んでいる地域活動がそのまま当てはまります。

これまでは、授業後や休日に部活動や有志が中心となって取り組んできた地域活動でしたが、今後は、**地域探究科**（地域社会学科）として、正規の授業として展開できることとなります。また、**連携型中高一貫校**として中学校と連携することにより、異年齢の交流による相乗効果も期待できます。連携大学と協働したフィールドワークやオンライン講座、生徒による小学校への出前講座なども今以上に進めていきたいと考えていますので、より**魅力ある教育**が実現できそうです。

地域活動の主眼は、単なる知識の習得ではなく、地域資源を活用した学びを通じて主体的に課題を発見し解決する力や、リーダーシップやコミュニケーション能力、多様な価値観を尊重しつつ他者と協働する力などを養うことです。これらの力を身につけた未来の担い手を育成するため、これまで本校が培ってきた地域の皆さんとのつながりを活かして、2025年度（令和7年度）の**地域探究科**（地域社会学科）開設を目指します。

末筆になりましたが、本事業を進めるに当たり、ご支援・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げますとともに、2年目に向けた忌憚のないご意見をいただけたらと思います。今後ともよろしく願いいたします。

新時代に対応した高等学校改革推進事業 実施報告書 目次

巻頭言

第1章 事業の概要

1 本校の概要

- 1-1 所在地
- 1-2 設定課程および在籍生徒数
- 1-3 学校経営方針

2 地域探究科

- 2-1 設置の目的
- 2-2 地域探究科の特色・魅力
- 2-3 地域探究科での先進的な教育取組

3 地域探究科 事業構想（ビジュアル資料）

4 事業の実施計画の概要

- 4-1 3ヶ年の実施計画の概要
- 4-2 令和5年度の計画の内容
- 4-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画
- 4-4 成果普及のための計画
- 4-5 令和5年度年間予定

第2章 実施計画に基づく事業実施報告

1 カリキュラム研究開発

- 1-1 新学科設置校視察
- 1-2 新学科カリキュラム案
- 1-3 カリキュラム開発のための会議

2 地域連携センターの充実

- 2-1 美和高マインドについて
- 2-2 美和高マインドのコンソーシアム化
- 2-3 美和高マインド役員の充実
- 2-4 コーディネーター活動内容

3 連携大学の拡充

- 3-1 星城大学訪問
- 3-2 三重大学訪問
- 3-3 名古屋文理大学訪問
- 3-4 愛知県立大学訪問
- 3-5 岐阜大学訪問

4 「総合的な探究の時間」の充実

- 4-1 1年生での「総合的な探究の時間」の取組
- 4-2 地域住民による講義
- 4-3 フィールドワークの先行実施
- 4-4 令和6年度の「総合的な探究の時間」の年間指導計画作成

第3章 管理機関の取組

1 管理機関の取組

- 1-1 管理機関の役割と実施計画
- 1-2 管理機関による活動実績

第4章 今年度の成果と次年度に向けて

成果概要図

巻末 参考資料

第1章 事業の概要

1 本校の概要

1-1 所在地

〒490-1295 愛知県あま市篠田五ツ藤1番地

1-2 設定課程および在籍生徒数（令和5年度4月1日現在）

生徒数	1年	2年	3年	計
普通科	200	183	171	554
計	200	183	171	554
学級数	1年	2年	3年	計
普通科	5	5	5	15
計	5	5	5	15

1-3 学校経営方針

校訓

「和」

スクールミッション（教育方針）

- 自ら学び、深く考え、物事に積極的に挑戦し、成し遂げることのできる、たくましい生徒の育成を目指す学校
- 自らを律し、他者を思いやる心を持ち、他者と協働して地域社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校

スクールポリシー

1 目指す生徒像（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- 他者を思いやる優しさを持ち、地域と自分の未来を拓いていくたくましい力を育成する（対話力、思いやりの育成）
- 個性を伸ばし、自己有用感を高めつつ、学校生活における様々な活動にチャレンジ精神を持って取り組む力を育成する。（実践力、豊かな人間性の育成）
- ICT機器の活用やグループワークなど、主体的な学びに意欲的に取り組み、活用できる力を育成する。（情報活用力、課題発見力、問題解決力の育成）

2 本校における学び（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- 個の学力に合わせた授業展開と教科横断的な学びの実践
- 生徒の主体性を伸ばし、可能性を広げる探究活動を取り入れたカリキュラムの実践
- 地域の課題解決に向けて地域の人とともにを行う地域活動の実践
- グループワークなどで協働して研究を行ったり、議論したりする授業の実践

3 入学を期待する生徒像（入学者の受け入れに関する方針）

- 他者を思いやり、他者と協働して様々な教育活動に取り組む生徒
- 地域活動に積極的に参加し、地域社会の一員として貢献していきたい生徒
- 進学を目指し、自己の可能性に挑戦して、主体的に学習に取り組む生徒

重点目標 （スクール・ミッション、スクール・ポリシーの実現）

「豊かな人間性と生きる力を身につける」

「地域に根差した魅力的な高校をめざす」

「行きたい学校・入学して良かったと思える学校をつくる」

合言葉 「チャレンジ！」

地域探究科で育てる生徒像

自ら学び

深く考え

物事に積極的に挑戦し

意欲的で「たくましい生徒」

地域探究科で学んだことを活かして進学先でも生き生きと活躍できる生徒を育成し、潜在能力を開花させたい。

2 地域探究科（※計画時の地域社会学科から名称変更予定）

2-1 設置の目的（以下は事業実施計画に基づく）

本校を取り巻く状況

愛知県では、本県の教育振興基本計画として、令和3年2月に令和7年度までを計画期間とする「あいちの教育ビジョン 2025－第四次愛知県教育振興基本計画－」を策定した。「ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人材を育む」ことなど、7つの基本的な取組の方向を定めた。

こうした中、本校は、令和3年度に県内に先駆け地域連携センター「美和高マインド」を設置し、地域と学校との連携の在り方を模索してきた。本校が所在する愛知県あま市は、旧海部郡甚目寺町・美和町・七宝町が合併した市政13年となる若い市であり、名古屋市のベッドタウンとして近年発展を見せ、人口増加を続けている。あま市役所等の公共機関には本校の卒業生も多く、今後の市の発展を担う旧美和町唯一の県立高校として、地元からの本校や本校生徒への期待は大きい。

本校生徒は、あま市からの通学者が約30%、大治町・津島市・稲沢市等の隣接する地域からの通学者が約60%であり、まさにこの地域の未来を担う若者たちである。

地域探究科（地域社会学科）を設置する必要性

令和4年11月、愛知県教育委員会は、本校を地域の教育ニーズ対応型中高一貫教育の1校に決定し、公表した。あま市・大治町等近隣市町村と本校による連携型中高一貫教育を令和8年4月に開始し、地域の様々な活動を通じて、生徒が地域の人たちと共に育ち、楽しみながら社会貢献をすることができる、かけがえのない高校を目指すこととしている。中高一貫教育の導入に向け、「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」を親会議とし、「中高一貫教育具体化検討部会」や実務者レベルのワーキンググループにより、中高一貫教育と地域社会学科の具体的な在り方を検討する。

現在、本校と連携しているあま市の公共機関や団体に属する地域住民は、若者と地域を結ぶ教育に対して問題意識が高く、高校生への講話や講座にも積極的に参加している。このような地域住民との交流は、地域の課題を自ら考え、周囲の協力を得ながら問題を解決していく、生きる力を持ったロールモデルを直に見る場であり、自ら動いて地域社会をよりよくしようとする姿勢を学ぶ最良の機会でもある。生徒自らの人生の課題を把握し、適応する力を身につける上でも非常に重要であると考えている。

本校生徒の一部は既に、公共機関等が主催する地域興隆イベント等の運営ボランティアとして地域貢献を果たしているが、学業や部活動を抱える生徒にとって、地域貢献の時間を捻出することが困難なこともあった。今回、地域探究科（地域社会学科）を設置するにあたり、通常の教科よりも柔軟かつ多様に地域と連携できる学校設定科目を教育課程に取り入れることで、学校と地域の持続可能な連携の仕組みを作り上げることが可能になる。地域と学校が継続して協働するためには、コーディネーター等の人的資源の確保とともに、学校設定科目の開設と地域探究科の設置など、学校全体での取組が必要不可欠である。

あま市も本校も、全国的に見て著名な自治体・学校ではない。生徒の学力も全国的な平均値とほぼ一致する。しかしながら、このような中核的な地域で生活を送る生徒が自らを正しく肯定することで安定し、さらに自立した自己と協働する力によって活性化して勢いづくことは、日本全体の活性化に繋がるものであると考えている。生きる力を身につけた生徒を主体に、地域と学校とが結びついて年齢を超えた人の和をつくり、常に革新を続ける地域の先例となることが、本校の地域探究科設置の目標の一つである。

2-2 地域探究科の特色・魅力

当該学科における特色・魅力

本校は令和3年度に設立した地域連携センター「美和高マインド」を核とし、地域密着型の学校として、地域と深く交流してきた。当該学科においては、あま市役所・社会福祉協議会・商工会・NPO法人等の各機関や地元の小中学校・公立保育園等と連携し、「学生を軸とした地域活性化とは何か」を学校と地域で考え、生徒を主体とした地域興隆イベントの実践や地域住民向け講座等を実施していく。また、連携大学と協働したフィールドワークやオンライン講座を通じ、活動に必要な知識も身につける。これらの活動と地域や大学との協働を通じて、生徒の物事を肯定する力と地域社会の役に立てた経験からなる自己有用感を育て、不安定な時代を生き抜く力である課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力・対話力を育み、思いやりと豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成する。当該学科で学んだ生徒が自らの出身地域へその学びを還元することで、あま市のみではなく、その他の地域へと地域興隆の波を広げていく。

特色・魅力ある先進的な教育の取組

それぞれの学年を「美を知る1年生」「和をつくる2年生」「未来を拓く3年生」とし、1年次は地域の魅力を探究、2年次は連携機関や大学との協働、3年次は1・2年次の学びをもとに、知識や技術を地域社会に還元していくことをテーマとした教育に取り組む。カリキュラムとしては、1・2年次に「総合的な探究の時間」と「学校設定科目」をそれぞれ1単位ずつ、合計4単位、3年次に「総合選択（学校設定科目）」を2単位履修する。また、それらを支えるための教科等横断的な学びにも力を入れる。

(1) 「総合的な探究の時間」

総合的な探究の時間は、グループワークを通じての探究を主とし、環境や産業などの地域資源の発掘、連携大学と協働して地域を学ぶフィールドワークを実施する。その際、周辺地域のみでなく、この地域出身の戦国武将等にゆかりのある他県・他地域の魅力にも目を向けさせたり、この地域に多く在住する外国人の出身国についても探究させたりと、広い視野を持って地域から学ぶことを目標とする。また、地域興隆イベントや小中学生に向けた出前講座の企画等のグループワークも本時間に実施し、課題発見力の養成を目標とする。

(2) 「学校設定科目」

学校設定科目は、地域の伝統工芸品である七宝焼の一般向け講座運営や広報活動、地域興隆イベントや地元住民向けの実習講座など、実際に地域で活動することを主とする。地域住民との交流を通じて、異年齢とふれ合うことから、思いやりの心や対話力・問題解決力を育むことを目標とする。

(3) 「教科等横断的な学び」

総合的な探究の時間や学校設定科目におけるグループワークや地域活動を支える教科を超えた学びを実践する。広報活動に必要な情報活用力や、外国人とコミュニケーションを図るための語学等、実践を想定して指導する。また、環境美化活動を通じて地域の生態系への学びを促進したり、地域活性化の活動に伴い地域の歴史的遺産や関連する人物への知見を深めたりするなど、体験を通じた幅広い学びを提供する。

以上の(1)~(3)を通じ、生徒の物事を肯定する力と地域社会の役に立てた経験からなる自己有用感を育て、不安定な時代を生き抜く力である課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力・対話力を育み、思いやりと豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成する。

2-3 地域探究科での先進的な教育取組

地域探究科における取組の目的・目標

「あいちの教育ビジョン 2025－第四次愛知県教育振興基本計画－」では、基本的な取組の方向の一つである「ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人材を育む」ことについて、「ふるさとに学び、ふるさとを愛する心を育むとともに、生きていく上での羅針盤となる教育を充実させ、社会の激しい変化の中でも自分をしっかりとって、あいちを担っていく進取の精神を育てる」と示している。

こうしたあいちの教育ビジョンを受け、地域探究科での学びを通じて、地域社会の一員としての役割を生徒に認識させ、地域社会との協働を図る。地域社会との協働の中で、生徒が郷土の魅力と自らの価値を認め、自己肯定感と思いやりの心を育み、それらに裏打ちされた生きる力をもつことで、地域の未来をつくる人材を育てる教育を実践することを地域探究科の目的とする。

同時に、生徒の若い力もまた地域の資源であり、学校と地域との連携の下に、若者の視点を取り入れた独自の地域活性化の取組を提案・実行し、高校生主体の地域興隆を図ることを地域探究科の目標とする。

地域探究科における教育を通じて育成を目指す資質・能力

社会の激しい変化の中でも自分をしっかりとって、自らの力で困難を乗り越え、未来を拓くため、以下の7つの資質・能力の育成を目指す。

(1) 課題発見力

総合的な探究の時間のグループ活動や連携大学との地域探究のフィールドワークを通じて、地域の魅力とともに、地域興隆における課題を発見する力を養う。社会状況の中に課題を見つけ、自らの課題として捉えることの大切さにも目を向けさせる。

(2) 情報活用力

総合的な探究の時間や学校設定科目における探究活動や調査、地域活動を行う上での情報発信などを通じて、情報活用力を育成する。

(3) 問題解決力

地域興隆イベントや出前講座・実習講座を通じて、実際にイベントの企画や運営に携わることで、発見した課題に対する問題解決力を養成する。

(4) 実践力

3年間の学びから、自らの課題に対して解決策を考え、自ら実践し、地域に貢献していく力を養う。

(5) 対話力

グループワークや連携機関・大学とのフィールドワークなど、クラスメートや地域住民との交流を通じて、様々な考えを持つ他者と対話する力を身につける。

(6) 思いやり

実際に地域住民との交流や異年齢との交流を通じて、多様な他者への理解を深めることで、思いやりの心を育む。

(7) 豊かな人間性

総合的な探究の時間や学校設定科目における探究を通じて、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心を育む。

地域探究科のカリキュラムについて（計画時）

1年次は必修科目の履修を中心とし、2年次からは生徒の進路希望に応じ、科目選択群の中からの選択履修とする。

1年次、2年次には「総合的な探究の時間」及び「学校設定科目」をそれぞれ1単位ずつ、合計4単位を設定する。「総合的な探究の時間」と「学校設定科目」は、教科等横断的な学びと地域のニーズの両方に対応できるよう、運営指導委員会の助言をもとに、コンソーシアムの構成員が所属する各連携機関等と協議しながら内容を充実させる。

3年次には学校設定科目である「総合選択（2単位）」の中から各自が興味関心のある分野を選択履修し、希望する進路に繋がる学びを実現する。その際、1・2年次の取組を踏まえた上で、生徒の学びを地域に還元できるよう工夫する。なお、本校は令和8年度より連携型中高一貫教育を開始する予定である。生徒募集に先駆け、地域探究科でのフィールドワークを地元中学生と合同で行うなど、中学校と高等学校の学びの接続についても検討していく。

教育方法等の特色について

(1) 地域との連携

「総合的な探究の時間」では、地域住民を講師とした講話や出前講座等を行い、地域への知見を深める。「学校設定科目」については、市や町、商工会が主催する地域興隆イベントへの参加やフィールドワークを中心とし、地域住民と協働した活動を実施していく。また、地元の小中学校・公立保育園との連携し、本校生徒が地域の子どもたちに教科の基礎を楽しみながら学ばせる講座を開くなど、教科の知識習得と地域社会への貢献を両立させ、教科等横断的・年齢横断的な学びを実現する。

(2) 大学との連携した学び

地域住民との協働を円滑にするため、各連携大学の協力のもと、地域活性化とは何かについてのオンライン学習、大学教授等を講師とした出前授業、連携大学への研修旅行、大学のゼミと協働したフィールドワークなどを実施する。長期休業中には、ゼミと協働した地域活動に取り組み、時間数に応じて別途、本校で単位を認定する。なお、各連携大学へ進学することにより生徒が学びを継続できるよう、高校段階で身につけておくべき知識を共有するなど、高大接続に向けた指導を相互に確認する。

(3) 校内での教科等横断的な学び

フィールドワークの実践を情報発信するにあたり、地域在住の外国人への対応のために、情報・地理歴史・外国語等の知識は必要不可欠である。フィールドワークを通じて、各教科の学習が生徒自身の日常や将来に有効な学びであることを確認させ、生徒自ら学ぶ姿勢を身につけ、教科からは情報発信技術や翻訳の在り方など、教科書の枠を超えた実践的な学びをフィードバックできるよう工夫する。

3 地域探究科 事業構想 (ビジュアル資料)


※計画時の地域社会学科から、地域探究科への名称変更を予定している。

管理機関名：愛知県教育委員会

令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業 (普通科改革支援事業)

【愛知県立美和高等学校】地域社会学科 (設置：令和7年度予定)

小学生向け七宝焼講座




地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

あま市内活動




【設置の目的】

地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組むとともに、生徒の物事を肯定する力と不安定な時代を生き抜く力を育み、地域の未来の担い手を育成するカリキュラムを編成すること

七宝焼のように輝く 七つの資質・能力の育成を目標とします

課題発見力 情報活用力 問題解決力 実践力
対話力 思いやり 豊かな人間性

美和高等学校と連携機関・大学との協働体制



美和高等学校と連携機関・大学との協働体制

美和高等学校と連携機関・大学との協働体制

未来を拓く3年生

和をつくる2年生

美を知る1年生

学校設定科目

3年生・2単位

- 13の総合選択講座を履修
- ※自分が希望する学年分野の基礎を学ぶ講座
- ※地域住民へのプレゼンテーションや英語講座を含む

総合的な探究の時間

2年生・1単位

- 地域関係イベントに向けての準備
- 小学学校向け出前講座の企画・実施

学校設定科目

2年生・1単位

- 地域関係イベントの運営に参画「あまつり」・商工省主催「イール・イノベーションフェスタ」

教科等 横断的な学び

3年生

- 総合選択講座履修
- プレゼン・実習に向けた総合的指導
- 出前授業実施・実習に向けた専門知識の伝達等

教科等 横断的な学び

2年生

- 出前講座等に向けての教科的な指導(例)ドッジボール講座
- 実技・応用手段の知識等の伝達

教科等 横断的な学び

1年生

- 広報活動のための情報処理の育成
- 地域資源の歴史的な学び
- 外国人に向けた情報発信のための外国語学習

【連携機関3】

4 事業の実施計画の概要

4-1 3ヶ年の実施計画の概要

令和5年度（準備段階）

(1) カリキュラムの研究開発

新学科設置プロジェクトチームを中心に、連携大学や既存の新学科設置校を視察し、地域探究科のカリキュラム案、総合的な探究の時間と学校設定科目の年間指導計画の概要を作成する。また、年3回の美和高マインド定例会議等を通じて、美和高マインド役員や連携大学の専門職員との検討を定期的に行い、学術的知見と地域のニーズを取り入れながらカリキュラム案の修正を行う。

(2) 地域連携センターの充実

地域連携センターにて新学科についての概要説明を行い、学科設置に向けての役割を明確化する。各連携機関による地域住民のニーズ調査、本校での出前講座やフィールドワーク実践時の講師及び生徒の探究活動に向けた指導・助言を役割の中心とする。また、あま市のみでなく、大治町等近隣市町村からも役員を選出する。

(3) 連携大学の拡充

大学と連携したオンライン講座、ゼミと協働したフィールドワーク等の生徒の高度な学びを充実するため、連携先を拡充する。現在、既に本校と高大接続協定を結んでいる名古屋文理大、星城大に加え、地域政策学科等を有する東海地区の大学等との連携を模索していく。

(4) 総合的な探究の時間の充実

新学科設置に向けた事前準備として、これまで既実践してきている地域探究を充実させる。1・2年生を対象に、新学科設置時に実施予定の、地域と連携したフィールドワークの縮小版を総合的な探究の時間内に実施し、問題点を洗い出すなど、より効果的な探究の在り方について試行錯誤を重ねる。

令和6年度（試行段階）

(1) 地域住民の出前講座、地域と連携したフィールドワーク等の先行実施

現行の授業時間内で実施可能な出前講座や地域でのフィールドワークを一部先行して実施する。その際の改善点等を記録し、連携機関と共有する。

(2) 大学のオンライン講座等を先行実施

連携大学と協力し、オンライン講座等を先行実施する。その際、ネットワーク環境の確認や、生徒の理解度等を確認し、次年度以降の実施に向けた改善を図る。

(3) 総合的な探究の時間の深化

前年度までの学びを参考に、小中学生向けの高校生出前講座の一部を先行実施するなど、実践に向けたベースを完成させる。

令和7年度（設置）

令和7年度より、地域社会学科を設置し、カリキュラムの運用を開始する。1年次は総合的な探究の時間と学校設定科目を中心に地域と連携する。開始後も地域連携センター等を活用して、地域のニーズを把握する機会を継続し、随時改善を図る。

4-2 令和5年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新学科設置プロジェクトチームを発足する。(通年予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センター「美和高マインド」の新年度役員を選定し、委任する。現在のあま市の委員に加え、大治町等近隣市町の組織や愛知県教育委員会からも委員を選出する。
5月	<p>【指定内定後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームのミーティング年間予定を組む。(通年・月1回程度) ・職員会議にて、情報共有を行う。 ・考査期間等を利用し、既存の新学科設置校への視察を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド役員へ第1回定例会議の招集を行う。その際、新学科設置の告知を行う。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の連携大学とのフィールドワークの時期や出前講座の方法等、連携内容の詳細について協議を開始する。次年度に開始予定のオンライン講座について内容や方法等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会とともに、新規連携大学を開拓する。 ・2学期の地域探究の開始に先駆けて実施する基調講演の講師を連携機関から選定し、派遣を依頼する。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド定例会議を通じ、各連携機関の代表者へ新学科に対する聞き取りを行い、地域住民の要望を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド当該年度第1回定例会議を開催する。新学科に対する要望の確認を行う。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携したフィールドワークに公募生徒と教員が参加し、新学科での実践に向けて改善点を把握する。 ・希望生徒とともに既存の連携大学を訪問する。講座等を聴講し、参加生徒と引率職員にアンケートを取り、次年度以降のカリキュラム開発に向けたデータ分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各連携機関とともに地域活動を実践する。その際、新学科で実施する場合の流れをお互いに確認する。 ・新規連携大学への訪問を行う。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間において、地域探究を開始する。その際、実施学年の教職員・生徒へアンケートを実施し、カリキュラム研究のデータを収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって充実した地域探究となるよう、連携機関の講師による基調講演を実施する。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間における生徒の活動を観察し、次年度以降の授業内容を検討する。また、学校設定科目のカリキュラムの検討を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間への指導・助言を求める。その際、次年度以降の改善点をご指摘いただくことを要望する。

1 1 月	<p>・総合的な探究の時間の生徒による研究成果発表会を実施する。新学科設置を念頭に、美和高マインドの役員や地域住民にも参観いただき、発表内容や今後の探究内容の在り方についても指導・助言を受ける。保護者も発表を視聴できるよう、オンライン配信をするなど、広報の幅を広げていく。その後、生徒の発表を元に「地域活性化計画」を作成し、連携機関へ提出する。</p>	<p>・総合的な探究の時間で策定した「地域活性化計画」への意見・助言をいただき、次年度の総合的な探究の時間の実施にかかる検討の際にフィードバックする。</p>
1 2 月	<p>・当該年後の取組を振り返り、反省点を活かしながら次年度以降の総合的な探究の時間と、学校設定科目の大枠を決定する。</p>	<p>・美和高マインド当該年度第2回定例会議を実施する。その際、当該年度の取組を振り返り、カリキュラムへの助言を仰ぐ。</p>
1 月	<p>・当該年度の地域活動を振り返り、職員会議にて報告する。同時に12月までに考案したカリキュラムを報告し、職員からの意見を収集する。</p>	<p>・美和高マインド当該年度第3回定例会議を実施する。年度内に実施した地域活動等を総括し、次年度以降への取組を検討する。</p>
2 月	<p>・生徒・職員へ年度内に実施した授業やフィールドワークへのアンケートを実施し、データを分析する。</p>	<p>・地域の各連携機関・連携大学と、次年度以降の流れについて確認し、継続した連携を依頼する。</p>
3 月	<p>・職員会議において、年度内の成果とカリキュラム開発の進捗について報告を行い、意見を集約する。次年度以降の総合的な探究の時間と学校設定科目について、指導内容の詳細計画を策定し、決定する。</p>	

4-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画

【年度初め（4月）】

- (1) 当該年度第1回美和高マインド定例会議にて、前年度の反省点と今年度の年間指導計画を共有し、年度内の活動予定と指導内容を確認する。
- (2) 美和高マインド役員には、運営指導委員とコンソーシアム構成員が含まれるため、それぞれの立場からの指導・助言を受けた上で、年間指導計画に修正の必要があれば修正を加える。
- (3) 美和高マインドにはアドバイザーとして連携大学の職員も在籍しているため、学術的見地からも指導・助言をいただく。

【1学期末（7月）】

- (1) 当該年度第2回美和高マインド定例会議にて、1学期の実践報告を行い、生徒の活動や地域との連携における成果を共有する。1学期の実践についての評価を校内で共有し、2学期以降の活動に改善の必要があれば改善を図る。
- (2) 1学期の活動については、学校情報誌やホームページ等で随時発信し、学期末にはForms等を利用して生徒アンケートを実施し、定量的・定性的データを職員で共有する。地域に対する生徒からの建設的な提案がある場合は、美和高マインド役員を通じて共有する。

【2学期末（11月頃）】

- (1) 生徒による研究成果発表会を実施する。発表会には、美和高マインド役員や地域住民が参加し、保護者もオンラインにて視聴できる環境を整備する。
- (2) 美和高マインド役員や地域住民から、成果に対する意見と生徒の探究方法に対する改善策等を集約する。意見や改善策等を生徒及び職員にフィードバックする。

【3学期末（2月頃）】

- (1) 当該年度第3回美和高マインド定例会議にて、年度の最終報告を行い、次年度の年間指導計画の案を示す。
- (2) 美和高マインド役員から、次年度以降の改善点について具体的な指導・助言をいただく。

【通年】

- (1) 学校設定科目については、フィールドワーク等を主体とすることから、実施時には、各連携機関、参加した地域住民、生徒、職員等にアンケートを取り、結果を分析し、改善点を次のフィールドワーク等に活かす。
- (2) 教科主任会を通じて、効果的に教科等横断的な学びが実践されたかを検証する。その際、記録担当としてプロジェクトチームのチーム員が同席する。

【年度末（3月）】

上記から得られた改善点やデータをもとに、次年度の年間指導計画を作成する。

4-4 成果の普及のための仕組み

次の方法により、本事業の成果の周知を図る。

(1) 生徒による研究成果発表会

総合的な探究の時間での、生徒による研究成果発表会の内容については、参加する美和高マインド役員が、各連携機関に報告する。発表方法に工夫を凝らすグループも多いため、クラス代表の発表については動画での配信を実施する。

(2) 地域活性化計画

総合的な探究の時間の最終報告内容を冊子にまとめ、「地域活性化計画」として、あま市・大治町及び連携機関等へ配付する。

(3) 本校ホームページ

生徒による研究成果発表会、地域社会学科でのフィールドワーク等の様子を随時本校ホームページへ掲載し、地域住民が閲覧できる環境を整える。

(4) 美和の風

学校情報誌「美和の風」において地域社会学科等の取組を紹介し、連携機関やあま市・大治町等近隣市町村の小中学校等へ配付する。

(5) 地域活動報告

校内向けの「地域活動報告」を充実させ、令和7年度以降は、地域社会学科に在籍していない本校生徒にも活動の成果を周知する。

(6) あま市や大治町の広報誌

地域社会学科等の取組の案内や成果等を市政だよりや町政だよりに掲載することで、域内の住民に広く周知を図る。

4-5 令和5年度年間予定

※計画時の地域社会学科から、地域探究科への名称変更を予定している。

月	美和校内(校内予定・カリキュラム作成関係)	外部連携(大学) ※コンソーシアム	外部連携(地域) ※コンソーシアム	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新学科設置プロジェクトチーム発足(通年) ・美和高マインド役員選出・委任 ・⑫HP更新(随時) 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の打合せ・検討・実施(通年) ・地域活動への参加(随時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド第1回定例会議への参加
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド定例会議(第1回) ※地域社会学科創設の告知 ・プロジェクトチームの年間予定作成 ・⑬観察先確定・旅費申請等実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・新規連携大学の開拓(美和高と協働)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・⑭既存の連携大学(名古屋文理・星城)と協議開始 ・⑮新規の連携大学の開拓・協議開始 ・⑯職業人講話(1年生)の実施 ・⑰地域講演会講師の選定・依頼 ・⑱3か年カリキュラムの検討開始(べ切12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携に向けての協議開始 ※具体的な連携内容の確認 ※フィールドワーク・出席講座の詳細決定 ※オンライン講座の内容や方法の検討 (オンラインインの本格実施はR6) 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・⑲普通科改組事業実施校への視察(7~8月) ※事業費 ・⑳HP・学校情報誌(校内・校外)の発行 			
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・㉑地域と連携したフィールドワーク(地域活動)実施 ※アンケートの実施とデータ分析 ・㉒連携大学とのフィールドワーク等の実施 ※参加職員と生徒へのアンケート実施 ※カリキュラム研究用データの収集 ・㉓あま市広報への掲載依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の聴講・ゼミとのフィールドワーク等実施 ※アンケートの実施とデータ分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携したフィールドワーク(地域活動)実施 ※アンケートの実施とデータ分析 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間・地域探究の開始(1年生) ※「あま市活性化計画」の作成 ・美和高マインド定例会議(第2回) ・⑳探究授業実施校の視察(考察期間中) ※県費 			<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド第2回定例会議への参加 ・第1回運営指導委員会(事業説明・年間予定報告)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・㉔学校設定科目のカリキュラムの検討開始 ・㉕探究授業実施校の視察(考察期間中) ※県費 			<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間への助言・指導
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間・学校設定科目の概要決定 ※YouTube配信 ・㉖運営指導委員・地域住民・保護者の参観 ・「あま市活性化計画」の作成・連携機関へ提出 ・㉗カリキュラムの仮確定 			<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の成果発表会の参観・助言・指導 ・「あま市活性化計画」への意見・助言
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間・学校設定科目の修正開始 ・㉘カリキュラムの報告・修正開始 ・㉙HP・学校情報誌(校内・校外)の発行 			
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド定例会議(第3回) ・㉚12月までに考案したカリキュラムを報告・意見収集 ・㉛地域社会学科(地域活動)紹介動画の作成 			<ul style="list-style-type: none"> ・美和高マインド当該年度第3回定例会議への参加 ・第2回運営指導委員会(年度未反省) ※地域活動等総括・次年度の取り組みを検討 ※当該年度の振り返り・カリキュラムへの助言 ・次年度以降の流れについて確認
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の地域活動報告(職会) ・生徒・職員へアンケート実施・データ分析 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・㉜年度内の成果・カリキュラム開発の進捗報告(職会) ・総合的な探究の時間と学校設定科目の詳細計画決定 ・㉝HP・学校情報誌(校内・校外)の発行 			

第2章 実施計画に基づく事業実施報告

1 カリキュラム研究開発

今年度の計画

新学科設置プロジェクトチームを中心に、連携大学や既存の新学科設置校を視察し、地域探究科のカリキュラム案、総合的な探究の時間と学校設定科目の年間指導計画の概要を作成する。また、年3回の美和高マインド定例会議等を通じて、美和高マインド役員や連携大学の専門職員との検討を定期的に行い、学術的知見と地域のニーズを取り入れながらカリキュラム案の修正を行う。

1-1 新学科設置校視察

カリキュラム検討に際し、既存の普通科改革支援事業指定校への視察を行った。視察先と日程は以下の通りである。

【視察先及び日程】

- | | |
|-------------------|---------------|
| (1) 長崎県立松浦高等学校 | 令和5年10月12日(木) |
| (2) 兵庫県立柏原高等学校 | 令和5年10月12日(木) |
| (3) 和歌山県立串本古座高等学校 | 令和5年12月1日(金) |

【視察内容】

以下の項目について、重点的に視察を行った。

- ・学校の概要
- ・地域連携の状況及び連携方法
- ・教育取組について（カリキュラム、授業内容、学校行事、部活動及び課外活動など）
- ・入試（中学校から高校への入学）の方法
- ・校内組織について（担当分掌・人数・分掌内役割分担等）
- ・新学科生徒の進路について

1-2 新学科カリキュラム案

既存校視察や、コンソーシアム及び運営指導委員会からの指導・助言を元に校内で検討を重ねた結果、地域探究科では、以下の通りのカリキュラムを予定している。

令和7年度入学生 地域探究科 教育課程							学校番号 72
							愛知県立美和高等学校
教科	科目	標準 単位数	第1学年	第2学年	第3学年	計	備考
			全	全	全	全	
国語	現代の国語	②	2			2	
	言語文化	②	2			2	
	論理国語	4		2	2	4	
	古典探究	4		2	2	4	
地歴	地理総合	②			2	2	(ア)2、3年生「日本史探究」「世界史探究」は継続で選択履修する。 (イ)3年生「日本史研究」は「日本史探究」、「世界史研究」は「世界史探究」の選択者に限る。
	歴史総合	②	2			2	
	日本史探究	3		3	3	6	
	世界史探究	3		3	3	6	
	日本史研究	3			2	2	
公民	公共	②		2		2	
	政治・経済	2			2	2	
数学	数学Ⅰ	③	2			2	(ア)1年生「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」は期間履修とする。
	数学Ⅱ	4	1	2		3	
	数学A	2	2			2	
	数学B	2			1	1	
	数学C	2			2	2	
理科	物理基礎	2			2	2	
	化学基礎	2		2		2	
	生物基礎	2	2			2	
保体	体育	⑦⑧	2	3	3	8	
	保健	②	1	1		2	
芸術	音楽Ⅰ	②	2			2	(ア)「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」から1科目選択履修する。
	美術Ⅰ	②					
外国語	英語コミュニケーションⅠ	③	3			3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	
	論理・表現Ⅱ	2		2		2	
家庭	家庭基礎	②	2			2	
情報	情報Ⅰ	②		2		2	
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	3	
総合的な探究の時間(仮)		③~6	6	6	6	18	
計			32	32	32	96	

なお、総合的な探究の時間(仮)は、総合的な探究の時間(3時間)及び学校設定科目(3時間)の合計時間(6時間)である。計画時より、総合的な探究の時間と学校設定科目を大幅に変更している。地域との協働・小中学校との連携を強化していくことを各連携機関・小中学校と確認したこと、また、今後の活動を検討する上で、フィールドワークの時間の大幅な不足が明確になったことが、今回の単位数変更の理由である。

1-3 カリキュラム開発のための会議

運営指導委員会の体制および取組

体制

本校の運営指導委員会は「地域に根ざした事業主、地域政策を専門とした大学教授、連携機関の教育委員会教育長、NPO 法人代表等によって組織」し、以下の委員で構成される。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会長	山田 精二	「美和高マインド」副センター長
名古屋文理大学	中村 麻理	同大学 健康生活学部 フードビジネス学科長 同学科 教授 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
星城大学	谷口 庄一	同大学 経営学部 准教授 観光・まちづくり分野長 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
あま市教育委員会	伊藤 克仁	教育長
大治町教育委員会	平野 香代子	教育長
NPO 法人ほっとネット・みわ	立松 愛唯	同法人 理事長 あま市市民活動センター代表 「美和高マインド」役員
愛知県教育委員会	橋本 具征	高等学校教育課 課長

なお、上記委員は、次の3点について、それぞれの専門的知見から学校に対して指導・助言を行う。

- (1) 「総合的な探究の時間」及び「学校設定科目」における教科等横断的な学びの充実
- (2) 学術的な観点と地域のニーズの両方に対応したカリキュラム開発の進捗
- (3) 生徒の活動と地域社会学科の目的・目標の整合性

取組

今年度は、9月と1月に、全2回の運営指導委員会を実施した。

【第1回】

9月22日（金）に実施。普通科改革支援事業の概要説明と、9月以前に行った大学訪問や地域との協働活動について報告し、今後のカリキュラム案についての指導・助言を受けた。

【第2回】

1月26日（金）に実施。新学科のカリキュラム案の進捗報告と、総合的な探究の時間に行った「地域探究」の成果発表を実施し、次年度に向けての指導・助言を受けた。

2 地域連携センターの充実

今年度の計画

地域連携センターにて新学科についての概要説明を行い、学科設置に向けての役割を明確化する。各連携機関による地域住民のニーズ調査、本校での出前講座やフィールドワーク実践時の講師及び生徒の探究活動に向けた指導・助言を役割の中心とする。また、あま市のみでなく、大治町等近隣市町村からも役員を選出する。

2-1 美和高マインドについて

本校は、スクールミッションの一つに「自らを律し、他者を思いやる心を持ち、他者と協働して地域社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校」であることを掲げ、令和3年度に他校に先駆け地域連携センター「美和高マインド」を設置し、地域と学校との連携の在り方を模索するなど、地域連携を特色・魅力の一つとしている。次の頁に、美和高マインド設置要綱を掲載する。

なお、今年度は以下の役員で構成されている。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会	山田 精二	あま市商工会長 「美和高マインド」副センター長
名古屋文理大学	中村 麻理	同大学 健康生活学部 フードビジネス学科長 同学科 教授 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
星城大学	谷口 庄一	同大学 経営学部 准教授 観光・まちづくり分野長 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
NPO 法人ほっとネット・みわ	立松 愛唯	同法人 理事長 あま市市民活動センター代表
あま市商工会	青海川 祐城	あま市商工会 青年部長
あま市市長公室	片岡 篤志	企画政策課 係長
あま市建設産業部	伊藤 善崇	商工観光課 係長
あま市市民生活部	高橋 美果	人権推進課 課長補佐
あま市社会福祉協議会	横井 達也	地域福祉課 主査
あま市教育委員会	山田 幹夫	生涯学習課 課長補佐
あま市教育委員会	水野 賢太郎	学校教育課 主幹
大治町教育委員会	原野 恭幸	学校教育課 主幹
美和高校同窓会長	山崎 一孝	美和高校学校評議委員

美和高校地域連携センター「美和高マインド」設置要綱

(目的)

第1条 この規則は、学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」の理念を実現するために、美和高校地域連携センター「美和高マインド」における、必要な事項について定める。

(趣旨)

第2条 美和高校地域連携センター「美和高マインド」は、県立美和高等学校における教育活動の支援に関して協議する機関として、保護者及び地域住民、地域団体等による教育活動への支援を促進し、互いの信頼関係を深め、学校が目指すべき教育の在り方を共有することにより、教育活動の充実や生徒の健全育成に取り組むものとする。

(設置)

第3条 前条の目的を達成するため、県立美和高等学校に地域連携センター「美和高マインド」（以下「美和高マインド」という）を設置する。

(活動内容)

第4条 「美和高マインド」は次の各号に掲げる事項について学校の教育活動を支援する。

- (1) 総合的な探究の時間を中心とした地域探究活動に関する事
- (2) 校内や地域の環境整備や学校行事の推進に関する事
- (3) 地域との交流、異校種交流や地域貢献活動に関する事
- (4) その他、生徒の自己有用感や主体性を育成するための活動に関する事

(センター長及び副センター長)

第5条 1 「美和高マインド」のセンター長は愛知県立美和高等学校長とする。
2 副センター長はあま市商工会長とする。

(役員の任命)

第6条 「美和高マインド」の役員は15名以内とし、次の各号に掲げる者のうちから、センター長が任命する。

- (1) 愛知県立美和高等学校PTA会長
- (2) 愛知県立美和高等学校同窓会長
- (3) あま市地域代表者
- (4) あま市役所代表者
- (5) 愛知県立美和高等学校職員
- (6) その他、センター長が適当と認める者

(任期)

第7条 すべての役職の任期は当該年度の4月1日から3月31日までとする。

(組織)

第8条 1 事務局を愛知県立美和高等学校におく。事務局長は教頭とする。
2 会計担当は愛知県立美和高等学校の事務長とする。
3 会計監査は愛知県立美和高等学校のPTA会長が行う。
4 アドバイザーは外部関係者（センター長が適当と認める者）とする。
5 コーディネーターは愛知県立美和高等学校の職員とする。

(会議)

第9条 1 「美和高マインド」の会議は、美和高等学校の教育活動に必要な支援を協議するため、センター長が招集し、センター長がその議長となる。
2 会議は、年3回程度開催するものとする。

(予算)

第10条 「美和高マインド」における予算は愛知県立美和高等学校同窓会から地域貢献活動費として毎年10万円の支援を受ける。予算の執行についてはセンター長が行い、その監査は会計監査が行う。

附則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

2-2 美和高マインドのコンソーシアム化

地域探究科の設置目的である「地域の未来の担い手を育成する」ことを実現するため、大学や地域の関係機関などで構成する地域連携センター「美和高マインド」を母体とするコンソーシアムを構築し、地域と学校がさらに連携・協働した教育活動を継続して実施することを、第1回美和高マインド役員会にて提案し、承認いただいた。これをもって、「美和高マインド」のコンソーシアム化を完了する。なお、今年度のコンソーシアム役員は、次の通りである。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会	青海川 祐城	あま市商工会 青年部長
あま市市長公室	片岡 篤志	企画政策課 係長
あま市建設産業部	伊藤 善崇	商工観光課 係長
あま市市民生活部	高橋 美果	人権推進課 課長補佐
あま市社会福祉協議会	横井 達也	地域福祉課 主査
あま市教育委員会	山田 幹夫	生涯学習課 課長補佐
あま市教育委員会	水野 賢太郎	学校教育課 主幹
大治町教育委員会	原野 恭幸	学校教育課 主幹
美和高校同窓会長	山崎 一孝	美和高校学校評議委員

取組

今年度は、5月、9月、1月に、全3回のコンソーシアム会議を実施した。会議での協議内容は、以下の通りである。

第1回コンソーシアム会議（5月19日）

- ・今年度役員紹介
- ・普通科改革支援事業についての告知
- ・美和高マインドをコンソーシアム化することへの提案・承認
- ・今年度の地域との協働活動についての提案・予定の確認

第2回コンソーシアム会議（9月22日）

- ・生徒による地域活動報告
- ・普通科改革支援事業進捗報告
- ・今年度後半の地域との協働活動についての提案・予定の確認

第3回コンソーシアム会議（1月26日）

- ・役員増員（観光協会の加入）についての提案・承認
- ・今年度の地域活動報告
- ・生徒による地域探究の成果発表
- ・次年度に向けての連携の確認

2-3 美和高マインド役員の充実

近隣の小中学校との連携強化のため、今年度から大治町教育委員会にもご参加いただくこととなった。また、新学科のカリキュラムを検討するにあたり、地域と協働した活動をする上で必要性から、来年度以降、あま市観光協会の事務局長にも美和高マインド及びコンソーシアムへ加入いただく了承を得た。

2-4 コーディネーター活動内容

コーディネーターが取り組む内容

(1) 学校と連携機関・大学との調整・カリキュラムの検討

学校の年間指導計画を確認し、日程や活動内容の詳細を連携機関・大学と調整し、学校と共有することで、年間指導計画の作成を支援する。

連携機関・大学からの要望・助言と学校からの要望を調整し、年間指導計画への反映を図る。

地域の特色を活かした教育活動をより充実させるために、新たな連携機関・大学との調整や協議を図る。

また、教員と連携して新学科のカリキュラムを研究・検討する。

(2) データ分析

各学期や活動ごとの関係者によるアンケートを分析し、各連携機関・大学および学校に共有する。改善点については、すぐ次の活動から改善できるよう速やかに発信し、学校と共有する。

(3) 広報活動

生徒の活動等の様子が分かる資料を作成し、ホームページや学校情報誌の作成担当職員と共有する。

今年度の体制

現在は週1日（金曜日）4時間程度、1名のコーディネーターが勤務している。なお、今後、必要に応じて追加配置を予定している。

今年度の取組

7月 R5年度 高校コーディネーター研修対面研修①（島根）

11月 R5年度 高校コーディネーター研修対面研修②（福島）

2月 R5年度 高校コーディネーター全国フォーラム（東京）

また、コーディネーター研修オンライン研修への出席の他、コンソーシアム会議・運営指導委員会への参加とともに、次年度の総合的な探究の時間について、あま市社会福祉協議会等と連携・協議し、指導計画の作成を支援した。

3 連携大学の拡充

今年度の計画

大学と連携したオンライン講座、ゼミと協働したフィールドワーク等の生徒の高度な学びを充実するため、連携先を拡充する。現在、既に本校と高大接続協定を結んでいる名古屋文理大、星城大に加え、地域政策学科等を有する東海地区の大学等との連携を模索していく。

3-1 星城大学訪問

日時 2023年8月2日(水) 10:00~15:00

目的 「総合的な探求の時間」の創出の参考とするため。また、星城大学での学びを実際に体験することで、参加生徒の大学での学びに対する興味関心を高めるため。

参加者 部活動生徒 25名

内容 午前：知多市役所職員による調査事例の説明。夏の「新舞子ビーチフェスティバル」(8/27(土)開催予定)での星城大学による調査計画の立案についての講座。

午後：美和高校が参加・出店する市民祭「第7回あまのわ(あま市市民活動祭2023)」(10月下旬開催予定)での活動計画発表。「あまのわ」での調査計画に関する、アンケート項目を考えるワークショップとグループ発表。

午前 講座受講中の様子



午後 ワークショップの様子



午後 グループ発表の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・グループワークでは、多くの人と意見を言い合い、サポートし合うことが大切だと分かった。・今後は恥ずかしがらずに自分の意見を積極的に発言していきたいと思った。
- ・大学生との意見交換を通し、もっと広い視野で物事を考えることが必要だとわかった。アンケート項目など、今まで深く考えることのなかった事柄を改めて考える時間になり、おもしろかった。
- ・思っていたより自分は地域の事を知らないと感じた。これを機にもっと調べてみたい。
- ・まちづくりの話聞いて、地域政策に興味湧いた。今回参加することができてうれしい。

3-2 三重大学訪問

日時 2023年8月28日(月) 12:00~16:00

目的 地域政策に関する大学での学びに触れるとともに、三重大学での学びを実際に体験することで、参加生徒の大学での学びに対する興味関心を高めるため。

参加者 2年生公募生徒

内容 三重大学の学食体験及び学内自由散策。大学職員による施設の説明。地域政策学科の教授による体験講座を受講。その後キャンパスを一周する形で見学。高校とは異なる雰囲気 of 講義室や、広大な図書館、地域政策棟等の説明を受けた。

講義及びキャンパス説明の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・キャンパスが想像以上に広く驚いた。講義の内容も面白かった。
- ・今日学んだことをいかして、さらにもっと勉強しなければいけないと思った。
- ・美和高校と同じように地域について考えることができる学部に興味を持った。
- ・三重大学の見学をして、大学の講義の中で、生物学や地域イノベーションについての話があり、とても面白かったです。特に説明の中にあつた「広く深く考える」という言葉が印象に残りました。
- ・講義を聞いて、地域の人とのコミュニケーションを大切にしていると思いました。他にも地域イノベーションのことや自分の知りたかつた大学生活についてよく知ることができてよかつたです。
- ・実際に大学に行ってみてホームページではわからない魅力を知ることができました。

3-3 名古屋文理大学訪問

日時 2023年8月29日(火) 9:30~12:30

目的 地域政策に関する大学での学びに触れるとともに、名古屋文理大学で提供される学びの内容を知ること、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者 1年生公募生徒

内容 ①情報メディア学科ミニ体験

- ・撮影スタジオ、レコーディングスタジオ
- ・学生プロジェクト紹介

②フードビジネス学科ミニ体験

- ・フードスタジオ、フードコーディネートのためのアトリエ、カフェ実習室
- ・商品開発プロジェクト経験学生によるトークショー

③大学のゼミ体験～地域政策編～

- ・地域政策ゼミの体験グループワーク
- ・グループ発表

①情報メディア学科ミニ体験の様子



②フードビジネス学科ミニ体験の様子



③大学のゼミ体験の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・メディアやフードビジネスなど、大学で学べることの幅が広くて驚いた。
- ・トークショーなどで実際にそこで学んでいる人の声が聞いてよかった。
- ・ゼミ体験を通して、改善点のを見つけ方を知ることができた。今後のグループワークに活かしていきたい。
- ・大学での学びに触れ、進学したいという気持ちが強くなった。大学生になれるようにしっかり勉強したい。

3-4 愛知県立大学訪問

日時 2023年8月30日(水) 10:00~13:30

目的 「総合的な探求の時間」の創出の参考とするため。また、愛知県立大学での学びを実際に体験することで、参加生徒の大学での学びに対する興味関心を高めるため。

参加者 1年生公募生徒 34名

内容 午前：愛知県立大学職員による施設の説明。回廊型のキャンパスを一周する形で見学。高校の教室とは異なる雰囲気 of 講義室や、広大な図書館、海外の書籍や映像を使って留学生と交流できるスペース等の説明を受けた。

午後：日本文化学部歴史文化学科の上川通夫教授による体験講座を受講。巻物のレプリカを実際にほどいたり、巻き直したりして歴史を体験した。

午前 施設見学の様子



午後 体験授業の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・施設見学で見た大学の教室が、普段自分が高校で授業を受けている教室と雰囲気が違って、新鮮だった。
- ・大学のキャンパス内が広々としていて、ここで大学生活を送りたいと思った。
- ・歴史や文化が好きなので、体験授業がとても面白かった。巻物は全部一度に広げるのではなく、少しずつ伸ばすのと巻くのを同時にすると知って、昔の人は器用だったのだと思った。
- ・今は封筒に手紙を入れるけど、昔は紙で紙を包んでいたと知った。昔の人の知恵がすごいと思った。

3-5 岐阜大学訪問

日時 2023年8月28日(月) 11:20~16:55

目的 地域政策に関係する大学での学びに触れるとともに、三重大学での学びを実際に体験することで、参加生徒の大学での学びに対する興味関心を高めるため。

参加者 2年生公募生徒

内容 午前：岐阜大学の学食体験。学内自由散策。

午後：大学職員による施設、地域政策学科の説明。岐阜大学の教授による体験講座を受講。その後岐阜大学学生との交流。

午前 学食及び散策の様子



午後 大学説明及び体験授業の様子



午後 学生との交流の様子



生徒感想（一部抜粋）

- ・自然豊かなキャンパスとグラウンドの広さに驚いた。学食のカレーライスが美味しかった。
- ・愛知県から通っている大学生も多いことを知って以外に思いました。たくさん勉強して岐阜大学に入りたいと思います。
- ・体験講座が今まで考えたことのない内容で難しかった。授業もチャットを使っていて高校にはない授業の雰囲気が面白かった。
- ・大学生に悩みや勉強のことを聞くことが出来て参考になった。早く大学生になりたい。
- ・地域政策学科の先輩から学部の具体的な内容が聞けて、楽しかった。自分が知らない学問や研究がたくさんあることを実感した。

4 「総合的な探究の時間」の充実

今年度の計画

新学科設置に向けた事前準備として、これまで既実践してきている地域探究を充実させる。1・2年生を対象に、新学科設置時に実施予定の、地域と連携したフィールドワークの縮小版を総合的な探究の時間内に実施し、問題点を洗い出すなど、より効果的な探究の在り方について試行錯誤を重ねる。

4-1 1年生での「総合的な探究の時間」の取組

総合的な探究の時間

活動目標

地域とのつながりや連携を学び、あま市の地域活性化のためのイベントを考える。

実施計画

実施日	テーマ	実施内容
9月7日(木)	地域について考える①(ガイダンス)	ガイダンス・ <u>グループ(役割)決め</u> ・ <u>TimeTactにログイン</u>
9月14日(木)	地域講演会	地域イベントについての講話を聞く
9月21日(木)	地域について考える② 調べ学習	美和高生から見たあま市の魅力・課題点、活性化のためのイベント等について話し合い、提案の素案を考える ※グループワーク、TimeTactに共有
9月28日(木)	地域について考える③ 調べ学習	美和高生から見たあま市の魅力・課題点、活性化のためのイベント等について話し合い、提案の素案を考える ※グループワーク、TimeTactに共有
10月5日(月)	地域について考える④	※グループワーク、TimeTactにまとめる
10月16日(木)	地域について考える⑤ 発表練習	※グループワーク、TimeTactにまとめる
10月19日(木)	地域について考える⑥ 発表練習	※グループワーク、TimeTactにまとめる
10月26日(木)	地域について考える⑦	<u>クラス発表</u> クラスの優秀グループを選ぶ
11月2日(木)	全体発表会(地域について)	<u>全体発表</u> 学年の優秀グループを選ぶ
優秀発表を基目寺コミュニティ協議会様・美和高マインド役員会へ提出		

活動実績

(1) 地域講演会

甚目寺コミュニティ協議会様より、コミュニティ協議会の役割、地域活性化のために実際に実施していることを学ぶ。

* 実際の講演会の様子

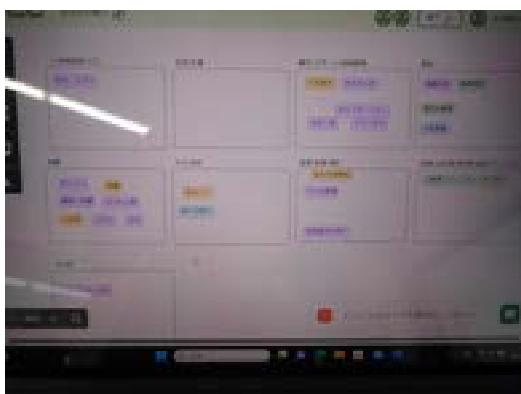


駅周辺の活性化などの実例を挙げてもらいながら、現在のあま市の地域課題を知った。地域の活性化には「持続」が大切ということを知り、そのために何が必要かを考えながら今後のテーマ設定につなげていった。

(2) 地域について考える

- ・地域の課題と地域活性化に向けて、「高校生の自分たち」に何ができるかを考えた。また、各クラスの HR 担任支援のもと、各クラス班を分けてテーマ設定を行った。
- ・TimeTact を利用し、生徒各自のタブレット端末から意見の共有を行った。
- ・クラス内で発表を行い、各クラス優秀な班を選出し、学年の前で発表を行った。

* タブレット上での共有



* 意見交換の様子



* クラス内発表の様子



* 学年全体での発表の様子



* 発表スライドの例（提案の一例）

【No.2】 SCHOOL HOTEL



〈あま市の課題〉 -観光する人が少ない -観光する場所がない
〈あま市の魅力〉 -小中学校が多い -特産品が多い 例)ほうれん草、れんこん
〈提案の目的〉 -地域活性化のため、交流場所を提供

学校の校舎を土日祝に限りホテルとして公開！

懐かしの学校で学生時代を思い出すもよし、異様に落書きな人も...



* クラス代表発表テーマ一覧

クラス	タイトル	内容
1-2	北西尾張グルメフェスタ	名古屋市と共同開催し、名古屋市とあま市の食材をコラボさせる。
1-5	SCHOOLHOTEL	学校の校舎を宿泊施設として一般開放。大人たちが地元で学生気分を味わえる。
1-3	アマガエルステーキ屋	地元の農作物に被害を及ぼすカエルを調理し、駆除とインパクトある料理で集客を目指す。
1-4	ゆるキャラたちとクリスマスを過ごそう	あま市のゆるキャラと共にクリスマスイベントを開催し、子供を集める。
1-1	田んぼアート	あま市に田んぼアートを作り、SNS を利用し、集客する。

(3) 成果と課題

<成果> あま市在住の生徒が多く在籍する美和高校生が「地域活性化イベント」を考え、地元を調べ興味・関心を持つようになった。「高校生」の視点からでも地域活性化につながるアイデアが多く提案された。

<課題> 一部の生徒の意見だけで、まとめられている班もあった。
実際に実施するに必要な事柄を深めていくところまで考えさせたい。

4-2 地域住民による講義

職業人講話（あま市商工会）

日時 2023年6月12日(月) 5・6限

目的 地域で活躍する実業家から仕事や職業選択についての考えを聞き、生徒自身の将来の目標設定の参考とさせる。

講師 あま市商工会所属の実業家9名

受講者 1年生 200名

講話の様子



地域講演会（甚目寺コミュニティ協議会）

日時 2023年9月14日(木) 6限

目的 甚目寺駅前や甚目寺観音周辺で地域活性化イベント「つなぐ市場」を主催する甚目寺コミュニティ協議会の役員を講師として招き、地域活性化についての講演を聞く。2学期の「総合的な探究の時間」における地域探究で、地域活性化イベントを考える際の参考とする。

講師 甚目寺コミュニティ協議会 役員2名

受講者 1年生 200名

講話の様子



福祉実践教室（あま市社会福祉協議会）

日時 2023年9月14日(木)6限

目的 車椅子・手話・点字・高齢者疑似体験などの講座を受け、福祉に対する理解を深める。

講師 あま市社会福祉協議会 職員2名・派遣講師13名

受講者 1年生200名

教室の様子



成果と課題

実業家の仕事観や高校生活へのアドバイス、地域活性化イベントの考え方、地域福祉のあり方についてなど、多岐にわたる講話・講演への依頼を、地域の方々に快く引き受けていただいた。新学科設置に臨み、本校には基盤となる地域の支えがあることを再認識するとともに、地域の方々には、生徒の様々な学びの機会を提供いただき、感謝の念に堪えない。次年度以降については、こうした地域との繋がりをベースとし、生徒が主体的に動ける授業の創出を課題としていきたい。

4-3 フィールドワークの先行実施

国府宮神社 御田植祭 早乙女（あま市商工会・あま市奉賛会）

日程	2023年5月10日（水）	あま市奉賛会との初回打合せ 国府宮神社神主による講座（本校校内）
	5月17日（水）	早乙女の舞・歌い手練習会（校内）
	5月24日（水）	早乙女の舞・歌い手練習会（校内）
	5月31日（水）	早乙女の舞・歌い手練習会（校内）
	6月7日（水）	最終調整・足袋試着等（校内）
	6月10日（土）	リハーサル（現地）
	6月11日（日）	御田植祭 本番（現地）

参加者 公募生徒1～3年生 計20名

目的 地域の伝統行事の継承に貢献すると同時に、生徒が地域の歴史や伝統文化を学ぶ機会を創出する。

内容

あま市商工会・あま市奉賛会からの依頼により、令和5年度の国府宮神社「はだか祭」で奉納する大鏡餅のための御田植祭で、舞を舞う早乙女と歌い手を本校生徒から選出した。

5月10日の初回打合せに際し、国府宮神社の神主と巫女による国府宮神社並びに「はだか祭」の歴史と、早乙女の役割についての講座を受けた。その後1カ月にわたって舞と歌の練習を重ね、当日は御田植祭会場にて早乙女の舞と歌を奉納し、御田植の儀を行った。また、一部生徒は10月の抜穂祭にも参加した。

打合せと講座の様子



練習風景



御田植祭本番



成果と課題

5月の初回打合せから10月の抜穂祭までの長期にわたる活動で、参加した生徒からは、「普段は着ることのない衣装を着て、今回初めて見聞きする舞や歌を奉納するなど、なかなかできない体験ができた」「伝統行事に関わることができてうれしい」などの感想が聞かれた。地域の伝統行事の継承に貢献し、地域の歴史や伝統文化の一端に触れたことは、生徒が今後歴史等の教科の学びを深める上でも良い経験となった。

ただし、御田植祭については、あま市が毎年担当する行事ではないことから、次年度以降の継続が難しい活動である。次年度については、今回の活動を経験した生徒を中心に、地域の伝統行事や歴史を学ぶ探究活動を模索していきたい。

きっず七宝探偵団（七宝焼アートヴィレッジ）

日程 2023年7月22日（土） きっず七宝探偵団 七宝焼講座
運営補助（七宝焼アートヴィレッジ内）
8月29日（火） きっず七宝探偵団 遠足引率（現地）

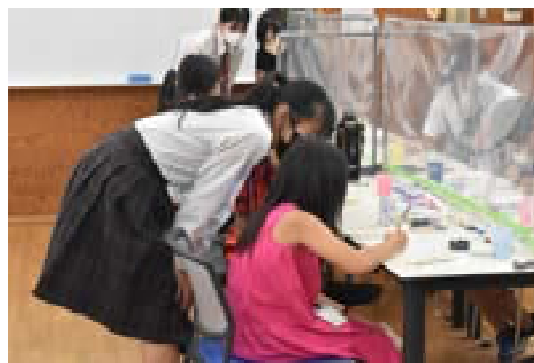
参加者 公募生徒1年生 4名

目的 地域の伝統工芸品について学ぶとともに、小学生向け講座の運営や遠足引率などの異年齢交流を通して、生徒の思いやりの心を育む。

内容

七宝焼アートヴィレッジの職員から、地域の伝統工芸品である七宝焼とその歴史について説明を受け、実際に七宝焼を制作した。その後、七宝焼アートヴィレッジにて夏休み期間に行われる小学生向け講座「きっず七宝探偵団」の運営と、小学生の遠足の引率を行った。

きっず七宝焼探偵団 講座の様子



遠足引率の様子



成果と課題

講座を通して、地域の伝統工芸品について生徒の知見を深めることができた。また、異年齢交流を通じて共に学ぶ楽しさを強く感じた生徒も見られた。

七宝焼アートヴィレッジとは、次年度の令和6年度は開館20周年記念行事を、令和7年度の地域探究科開設以降は小学生・一般向け講座の運営を共同で実施する予定である。今回の参加人数と新学科設置後の人数に開きがあることから、次年度以降のクラス単位の人数に応じた指導計画を作成することが今後の課題である。

トリアージ訓練（あま市民病院）

日程 2023年9月29日（金） 事前説明会（校内）

9月30日（土） トリアージ訓練本番（あま市民病院）

参加者 公募生徒1～3年生 18名

目的 災害時の医療について学ぶとともに、地域医療の発展の一助となる。

内容

医療系への進学を希望する生徒を中心に、あま市民病院で実施されたトリアージ訓練に患者役のボランティアとして参加した。事前にトリアージ訓練についての資料を読み、当日は病院スタッフから説明と演技指導を受け、訓練本番に臨んだ。

トリアージ訓練の様子



成果と課題

軽症者役から重傷者役まで、各自自分の役割をきちんと認識した上で活動に取り組む様子が見られた。また、参加生徒のほとんどが医療系への進学を志していることから、当日の病院スタッフの動きを見ながら周囲の人と災害医療についての意見交換をするなど、進学への意欲が高まった様子が見られた。

今年度初めての取組であり、次年度以降の継続的な活動について、市の担当者等との調整が必要である。医療系進学希望の生徒への良い学びであったことから、新学科の授業においても取り上げていきたい。

あまのわ（NPO 法人ほっとネット・みわ・市民活動センター）

日程 2023年9月22日（金） 市民活動センター担当者とのブース出展についての打合せ（代表生徒2名・校内）
10月21日（土） あまのわブース出展・アンケート調査
運営ボランティア

参加者 地域活動部

目的 ブース出展の企画・運営を通して、生徒が地域で主体的に活動する機会を創出する。また、星城大学のゼミでの学びを深めるため、アンケート調査を実地で行う。

内容

ブース出展、アンケート調査、中学生ボランティアをまとめるボランティアリーダーの3つの役割に分け、それぞれの活動を行った。ブース出展は、担当者との打合せ・企画・立案・運営・片づけまで全て行った。また、星城大学の谷口ゼミ所属員の現地での指導のもと、来場者にアンケートを実施した。ボランティアリーダーについては、当日参加した中学生のボランティアチームの全体の動きを統括するリーダーとして働いた。

ブース出展の様子



アンケート調査



成果と課題

ブース出展・アンケート調査・ボランティアリーダーそれぞれのグループが自分の役割をしっかりと理解し、率先して動く様子が見られ、地域の方々からも「美和高の生徒があっちでも頑張っていましたよ」「リーダーの子がしっかりと中学生をまとめていますよ」等のお声掛けをいただいた。

今回の活動の反省と地域・大学からのフィードバックをもとに、次年度以降の「総合的な探究の時間」におけるイベント企画の指導計画を作成していく。

放課後こども教室（あま市生涯学習課・あま市立美和東小学校）

日程 2023年12月15日（金） 事前制作（校内）
12月18日（月） 放課後こども教室イベント実施（美和東小）

参加者 地域活動部生徒・公募生徒 計6名

目的 イベント実施の実践力とともに、異年齢交流を通じ思いやりの心を育む。

内容

美和東小学校の放課後こども教室において、スノードームづくり講座のイベントを実施した。事前に校内でスノードームを制作し、当日は小学生に作り方を教えながら講座を運営した。

イベントの様子



成果と課題

普段は関わる機会が少ない年齢同士の交流であり、高校生と小学生がお互いに楽しみながら活動する様子が見られた。参加した高校生から継続した活動を希望する声が出るなど、今後の発展が期待される活動となった。今後は高校生が自ら企画・立案し実施する形をつくっていく。

その他の活動

前述の活動に加えて、あま市文化祭の運営ボランティア、イルミネーション・フェスタに向けた設置ボランティア、あま市立秋竹小学校での茶道教室（茶道部）、沖ノ島地区子ども会のイベント実施、あま市の「親子ふれあいデー」における講座運営など、様々な地域との協働を実施した。

これらの活動を踏まえ、次年度以降クラス・学年単位で実施が可能な活動を検討し、地域の人材を育成する礎となる総合的な探究の時間を創出していきたい。

4-4 令和6年度の「総合的な探究の時間」の年間指導計画作成

事業実施計画において、本校は令和6年度をカリキュラムの試行実施期間としている。今年度の取組を元に、次の通り、令和6年度の「総合的な探究の時間」の年間指導計画を作成した。なお、令和6年度は新学科設置の前年となるため、既存の普通科にて、各学年1時間の「総合的な探究の時間」が設定されている。

令和6年度 1年生「総合」 年間指導計画			テーマ：自分をみつめる（美を知る）			
学期	学習内容	時数	指導内容	身に付けたい資質・能力	評価方法	
1	1 オリエンテーション	1	探究活動についてのオリエンテーションを行う。	課題発見力・情報活用力	授業態度及び提出物	
	2 中学校の振り返り・高校の目標設定	1	中学時代を振り返り、できたこと・できなかったこと の反省を元に、よりよい高校生活を送るための具体的な 目標を、自分の将来を見据えて設定させる。			
	3 自分のことをもっと知ろう (自己PRを書いてみよう)	1	自分の長所・短所についてまとめ、自己PRを書かせる。 高校の面接質問事項や、エントリーシートを参考に にする。			
	4 文理選択について考えよう	1	自分の得意・不得意を見つめ、やりたいことを探し、 該当分野が文系理系のどちらになるかを調べさせる。			
	5 学部学科ガイダンスを聞こう	2	教員による学部学科ガイダンスを実施する。			
	6 職業人講話を聞こう	2	職業人に話を聞くことを通じ、「働くこと」 の意味を理解させる。			授業態度及び提出物
	7 職業について考えよう	2	職業人講話を参考に、将来なりたい職業について、1 人1つずつ発表させる。○組職業図鑑を作成する。			発表内容及び態度
	8 問題解決について学ぼう	2	問題解決テキストをもとに、探究活動に結び つく「問題解決」とは何かを学ぶ			授業態度及び提出物
	9 進みたい学科・職業について考えよう	1	1学期を振り返り、自分の将来について考え をまとめる。			授業態度及び提出物
2	1 進路選択についての自分の考えをまとめよう	1	高校選択の際の自分の考えをまとめ、進路選 択の際に大切だと思うことをまとめる。	課題発見力・情報活用力	発表内容及び態度	
	2 高校の学科について調べよう	2	愛知県内の高校がもつ学科について調べ、発表す る。			
	3 中学校の進路主任の話を聞いてみよう	1	あま市・大治町の進路主任から、高校選択時の指導で 留意している点についての講話を聞く。			授業態度及び提出物
	4 中学校訪問の内容を考えよう	2	班別に中学校訪問の進め方を検討し、授業内 容をまとめさせる。また、完成後は実際に ロールプレイを行う。	問題解決力・実践力・対話力	発表内容及び態度	
	5 中学生訪問をシミュレーションしよう。	2				
	6 中学校を訪問しよう	2	中学校を訪問し、進路選択についてのグルー プワークを実施する。	実践力・対話力・思いやり	活動への取組及び自己評価	
	7 福祉について考えよう	1	班別に分かれて行う疑似体験を通じ、バリア フリー社会への理解を深める。また地域との 連携についても考えさせる。	課題発見力・対話力・思いやり・豊かな人間性	活動への取組及び提出物	
	8 福祉実践教室準備	1				
	9 福祉実践教室に取り組もう	2				
	10 2学期を振り返ろう	1	2学期の振り返りを通じ、目標設定に対する 振り返りをさせる。	課題発見力	自己評価	
3	1 平和について学ぼう	1	平和とはどういう状態だと思えるか、各自の考 えをまとめる。	課題発見力・問題解決力・思いやり・ 豊かな人間性・対話力	活動への取組及び発表内容	
	2 世界の国々を調べてみよう	1	世界の国々の状況・世界平和への取組の例、平和記 念公園の役割などを調べ、平和のめに私たちにでき ることをまとめて発表する。			
	3 今起こっている戦争について調べよう	1				
	4 平和のためにできることを考えよう	2				
	5 全体発表会	1				クラス代表が全体へ発表する。
	6 1年間を振り返ろう	1	1年間の取組への振り返りを通じ、ポートフォリオを 作成させる。		授業態度及び提出物	

令和6年度 2年生「総合」 年間指導計画			テーマ：交流する（和をつくる）		
学期	学習内容	時数	指導方法	身に付けたい資質・能力	評価方法
1	1 2年生をスタートしよう	1	2年生の目標を設定させる。	課題発見力	授業態度及び提出物
	2 あま市について知ろう	1	あま市役所の仕事について調べ、質問項目を考える。	課題発見力・対話力	授業態度及び提出物
	3 あま市の行政について学ぼう	2	あま市庁舎を訪問orあま市役所の職員訪問にて、各課の仕事を知る。		
	4 あま市の観光について知ろう	3	七宝焼アートヴィレッジを訪問・七宝焼と観光協会の仕事について説明を受ける。	課題発見力・対話力	授業態度及び提出物
	5 あま市観光協会に提案書を作ろう	2	あま市の観光の問題点をまとめ、改善提案をする。 ※コンテスト等に出せる形にする。	課題発見力・対話力 ・問題解決力・情報活用力	発表内容及び態度
	6 クラス発表・全体発表会	2			
	7 観光協会10周年のお手伝い	2	※詳細は観光協会と打ち合わせの上決定	対話力・実践力 思いやり・豊かな人間性	活動への取組及び発表内容
1 観光協会10周年のお手伝い	4	※詳細は観光協会と打ち合わせの上決定			
2	(観光協会10周年10月5日(土))	公募生徒にて参加			
	2 修学旅行の準備をしよう	3	修学旅行先についての調べ学習を行う。	課題発見力・情報活用力	授業態度及び提出物
	(七宝焼シンポジウム11月3日)	公募生徒にて参加			
	3 進路講演会を聞こう	1	入試の形式等についての進路講演会を聞く。	課題発見力	授業態度及び提出物
	4 大学について調べよう	2	自分の興味・関心のある学問の探究を通じ、学問に対する理解を深めるとともに、将来の目標設定につなげさせる。	課題発見力・情報活用力・問題解決力・対話力	
	5 大学で学べることを知ろう(三重大・岐阜大・東大)	2			
	6 大学のゼミを体験しよう(星城・名古屋文理)	2			
	(土日に大学訪問《星城・名古屋文理》)	希望生徒にて参加			
7 自分の進路について考えよう	1	2学期までの内容を元に、自分の進路についての希望をまとめる。	課題発見力・情報活用力	自己評価	
3	1 3学期の学習目標を設定しよう	1	自分の進路目標に対し、入試のしくみや、それぞれの入試で必要とされている力、なぜそれが問われるのかについて調べ、発表を行う。進路実現のために必要な力と、その力を身に付ける手だてについて理解させる。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力	活動への取組及び発表内容
	2 入試探究	5			
	3 3年生の目標を考えよう	1			

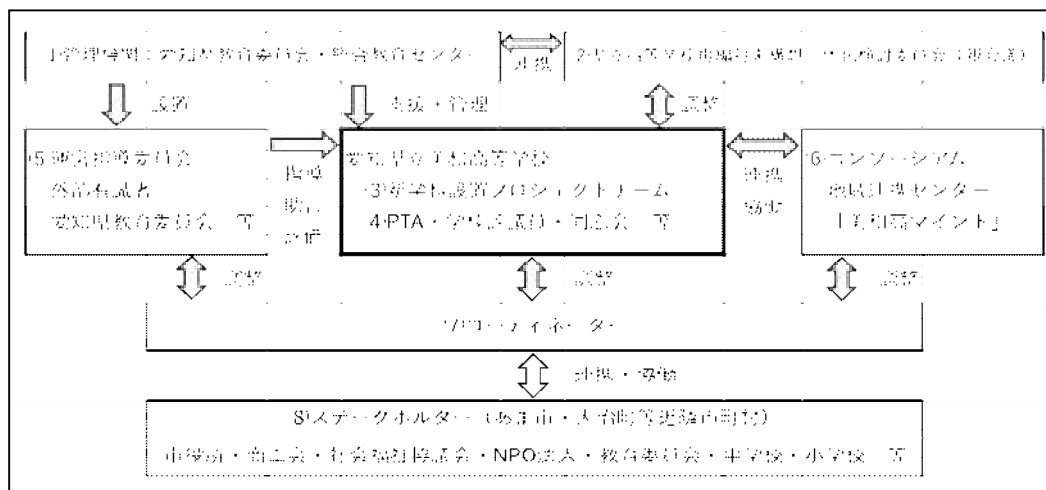
令和6年度 3年生「総合」 年間指導計画			テーマ：未来をみつめる（未来を拓く）		
学期	学習内容	時数	指導方法	身に付けたい資質・能力	評価方法
1	1 3年生をスタートしよう	1	3年生の一年間に向け、具体的な目標を設定させる。	課題発見力	授業態度及び提出物
	2 小論文の書き方を学ぼう	2	自分の興味・関心のある課題について、テーマを設定して小論文を書かせる。	課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力	授業態度及び提出物
	3 小論文を書いてみよう	2			
	4 自分の行きたい大学・学校について調べよう	2	自分の行きたい大学、学校、学部について調べ、クラス内で発表する。	課題発見力・情報活用力・対話力	授業態度及び提出物
	5 OB訪問	2	大学生のOB、OGを招いて、進路選択時に留意した点などについての講話を聞く。	課題発見力・情報活用力・対話力	
	6 志望理由を整理してみよう	1	自分が志望校を志望する理由について、箇条書きで整理させる。	課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力	
	7 志望理由をまとめてみよう	2	前時間の志望理由を元に、志望理由を400～600字程度の文章にまとさせる。		
	8 全体発表	1	前回まとめた自分の志望理由について、グループ内等で発表させる。	情報活用力・対話力	活動への取組及び発表内容
	9 1学期の学習成果を振り返ろう	1	1学期の振り返りを通じ、目標設定に対する振り返りをさせる。	課題発見力	自己評価
2	1 2学期の学習目標を設定しよう	1	1学期での振り返りを踏まえて2学期の具体的な目標を設定させる。	課題発見力	自己評価
	2 志望理由書を書いてみよう	4	1学期の内容を元に、実際の大学の例に触れつつ、志望理由書を書く。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力	
	3 クラス発表会	2	各自でまとめた内容について、グループ発表、グループ代表者はクラス内発表をする。		課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力・思いやり
	4 進路課題探究	7	各自で決めた研究テーマに従って、調べ学習をしたりさせる。必要があればフィールドワーク等行う。		
	5 2学期の学習成果を振り返ろう	1	2学期の振り返りを通じ、目標設定に対する振り返りをさせる。	課題発見力	
3	1 3学期の学習目標を設定しよう	1	2学期での振り返りを踏まえて3学期の具体的な目標を設定させる。	課題発見力	自己評価
	2 進路課題探究	2	PowerPointなどを利用し、各自でまとめた研究内容を発表会に向けて準備し、発表させる。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力・思いやり・豊かな人間性	
	3 研究発表会	1			
	4 ポートフォリオを完成させよう	1	1年間の取組への振り返りを通じ、ポートフォリオを作成させる。		
	5 3年間を振り返ろう	1	高校3年間の探究活動の成果について、振り返りをさせる。		

第3章 管理機関の役割

1 管理機関の役割と実施計画

管理機関における実施体制や事業の管理方法

【事業実施体制】 下図のとおり実施体制を構築する。



【事業管理方法】

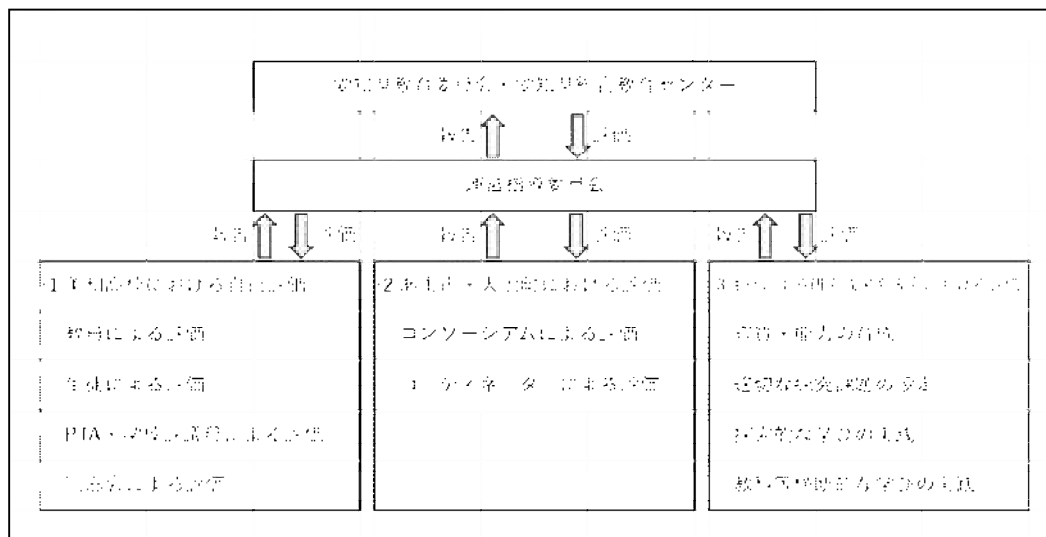
次の方法により事業を管理する。

- (1) 管理機関
愛知県教育委員会及び総合教育センターを管理機関とする。
- (2) 県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会（親会議）
中高一貫教育具体化検討部会や実務者レベルのワーキンググループ等により、中高一貫教育と地域社会学科の具体的な在り方を検討する。
- (3) 新学科設置プロジェクトチーム
愛知県立美和高等学校に本プロジェクトチームを設置し、「地域社会学科」への改編の実施主体とする。
- (4) PTA・学校評議員・同窓会
「地域社会学科」への改編に向け、既存のPTA、学校評議員及び同窓会からの意見を、特色・魅力あるカリキュラム及び教育方法の開発に取り入れる。
- (5) 運営指導委員会
外部有識者及び愛知県教育委員会等を構成員とする。年に2回開催し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。
- (6) コンソーシアム（地域連携センター「美和高マインド」）
令和3年に愛知県立美和高等学校が設置した地域連携センター「美和高マインド」をコンソーシアムの母体とする。年に3回の定例会議を開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。
- (7) コーディネーター
コーディネーターは全体を掌握し、必要に応じて調整を行い、学校と地域のステークホルダーによる連携・協働した教育活動の継続に努める。
- (8) ステークホルダー
地域連携センター「美和高マインド」構成員が所属する、あま市及び大治町等近隣市町村の関係機関等をステークホルダーとする。

管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業全体の成果検証及び評価のための体制】

下図のとおり事業全体の成果検証及び評価のための体制を構築する。



【事業全体の成果検証及び評価の考え方】

次の3つの方策において、定量的・定性的調査を行うことで、事業全体の成果検証、評価を行う。

(1) 美和高校における自己評価

美和高校において、教員、生徒、PTA、学校評議員及び同窓会を対象としたアンケートによる評価等を基に、本事業の取組について自己評価をまとめる。

運営指導委員会において、美和高校の自己評価の妥当性について検証する。

(2) あま市・大治町における評価

コンソーシアム構成員及びコーディネーターを対象に、生徒の資質・能力の伸長についてのアンケート評価等を実施することで、あま市及び大治町からの評価とする。

運営指導委員会において、あま市・大治町における評価の妥当性について検証する。

(3) 生徒による研究成果発表会における評価

年1回開催する生徒による研究成果発表会について、生徒、教員、コンソーシアム構成員、コーディネーター、地域住民及び愛知県教育委員会等が参加し、生徒の学びの深まりについて、次のような観点で評価する。評価結果等については、ウェブページに掲載する。

- ・生徒の研究が、資質・能力の育成に資する内容になっているか
- ・生徒の探究課題の設定が適切な内容になっているか
- ・生徒による探究的な学びが実践されているか
- ・生徒による教科等横断的な学びが実践されているか

(4) 管理機関における事業全体の成果検証及び評価

(1)、(2)及び(3)の3つの方策を踏まえた運営指導委員会からの検証報告を受け、事業全体の成果検証、評価を行い、他校での取組や事業を踏まえ、改善の指針を学校に示す。

2 管理機関による活動実績

【成果】

(1) 実施内容および日程

実施内容	日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①運営指導委員会						○					○	
②コンソーシアム会議		○				○				○		
③学校訪問指導(中高一貫教育ワーキンググループ・発表会・打合せ)		○			○	○	○	○		○	2回	
④オンライン研修			○		○	○	○		○	○	2回	
⑤指定校発表会等						○					○	
⑥高校との事業進捗確認	随時											

- ① 運営指導委員会に愛知県教育委員会高等学校教育課長が出席し、事業担当課の指導主事も同席した。年2回開催し、事業内容について、特に以下の項目の指導・助言を受けた。
 - ・大学入試等に対応した制度設計とカリキュラム
 - ・高校生としての探究活動の在り方
 - ・キャリア教育の視点での地域連携活動
- ② コンソーシアム会議に愛知県教育委員会高等学校教育課長、事業担当課の指導主事も参加した。年2回開催し、委員からは、それぞれの立場で、高校との交流活動について様々な提案がなされた。特に大学教員からは、地域交流イベント等での来場者調査・分析等、探究活動の糸口となりうる提案がなされた。
- ③ 中高一貫教育を導入するためのワーキンググループに、普通科改革支援事業の担当指導主事が参加した。年3回開催し、美和高校への中高一貫教育導入と地域社会学科新設を、一体的に検討した。11月には探究活動の生徒発表会を参観し、連携大学の教員・学生、高校教員と共に成果を検証した。
- ④ コーディネーター対象のオンライン研修を事業担当の指導主事が視聴し、コーディネーターの職務や役割についての理解を深めた。
- ⑤ 9月に普通科改革支援事業指定校発表会(京都市立開建高等学校)に参加し、先行する指定校の状況を把握し、先進校での授業を見学した。また、2月に高校コーディネーター全国フォーラム(文部科学省)に参加し、全国的な動向を把握し、参加者との意見交換を行った。
- ⑥ 事業の進捗状況確認、学科設置に向けての意見交換のために学校長や事業担当教員と随時連絡を取りながら、共通認識をもって事業を進めた。

【課題・次年度における管理機関の支援】

- 地域社会学科のカリキュラムや教育内容・評価方法の構築・改善について、指導・助言を行う。
- コーディネーター・校内組織の業務について、指導・助言を行う。
- 運営指導委員会・コンソーシアム会議運営の充実のための支援を行う。
- 事業担当の指導主事がコーディネーター研修(対面)に参加し、コーディネーターとの連携を図る。

第4章 今年度の成果と次年度に向けて
成果概要図



巻末 参考資料

新聞記事

【中日新聞 尾張・近郊・知多総合版 10月29日(日)発行】

稲刈 尾張 (注)複製権無効

はだか祭大鏡餅の米を収穫

あまの神饌田で抜穂祭



稲刈市の尾張大國霊神社(国府宮)で開かれる「国府宮はだか祭」に奉納される大鏡餅の米を収穫する神事「抜穂祭」が28日、あま市の神饌田であり、早乙女寮の美和高校生徒らが参加した。

鮮やかな衣装の生徒や農業者らは、神饌田から刈り取られた稲穂の中から、良い稲を選んで抜き取る作業を3回繰り返した。

3年の神野岡木さんは「6月に植えた稲がここまで育って驚いた。今回も貴重な体験をすることができた。奉納行事などにも関わっていきなさい」と話した。

奉納するあま市奉賛会による行事。来年2月16日に、同市で餅つきがあり、21日に大鏡餅の奉納パレードがある。はだか祭の本番は22日。

(古田幸雄)

神事で稲を選び取る早乙女寮の美和高校生ら＝あま市の神饌田で

【中日新聞 尾張総合版 12月21日(木)発行】

Xマス飾り 児童と制作

あま 美和高生が放課後教室訪問



あま市の美和高校の生徒たちが18日、美和東小学校の放課後子ども教室を訪れ、クリスマスに飾るスノードームの作り方を教えるなど子どもたちと交流した。

訪れたのは美和高校地域活動部の部員ら6人で、放課後子ども教室に通う児童12人に工作を手ほどきするボランティアに参加した。

会場にはスノードームのキットが用意され、同部副部長の2年水野花実さんらが教室のスタッフとともに指導に当たった。

ビンの中にサンタクロースの人形などが入ったスノードームの作り方を教える生徒ら＝あま市の美和東小で

子どもたちは何度もひっくり返して、雪に見立てたらメがきらきらと輝く様子を楽しんだ。同小3年の中島樹君は「優しく教えてもらい、きれいに作る」ことができた。台所に飾りたい」と話した。

(古田幸雄)

あま市配布物

【あま市文化祭 チラシ①】



【あま市文化祭 チラシ②】



【女性活躍情報誌】

あま市教育委員会女性活躍のまもりくまずめています！

あま市常任委員協議プラン

「いよいよ実現しはじめています！あま市が活躍できるまち、本気で取り組んでいきます。あま市常任委員協議プラン」を策定しました。このプランに基づき、あま市は様々な施策を実施していきます。あま市が活躍できるまち、あま市が活躍できるまちを実現していきます！

啓蒙イベント

● 事業推進協議
「あま市常任委員協議プラン」に基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

● 女性セミナー
あま市常任委員協議プランに基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

女性のつなぐりサポート事業

つなぐりサポートは、あま市に在住する女性が活躍できるまちを実現するための支援事業です。あま市常任委員協議プランに基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

高校生と大人たち、あま市で暮らす市民記者が取材しました！

あま市が活躍できるまちを実現するためにあま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。あま市常任委員協議プランに基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

【親子ふれあいデー チラシ】

あま市女性活躍情報誌

@ MyLife vol.7

笑顔のためにがんばり続ける 太田由佳さん

テーマパークを巡遊して
あま市常任委員協議プランに基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

楽しく活動をするために
あま市常任委員協議プランに基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

私のお話の魅力
あま市常任委員協議プランに基づき、あま市常任委員協議プランを策定して実施していただく協議を行っています。

「家庭教育支援協会の企業制度」とは

あま市教育委員会が主催・協賛する「あま市家庭教育支援協会」の企業制度です。あま市教育委員会には、あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

あまっ子育て応援BOOK

～家庭教育のススメ～

家庭教育とは、人が成長に受ける教育であり、基本的生活習慣を身につけるための重要な役割を果たしています。子どもとともに成長を促すための教育です。あま市教育委員会は、あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

企業制度マップ

あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

親子ふれあいデー

親子がともに学び、ともに楽しむ日があっていい！

2024年 2月10日(土)

10:00～15:00 場所：あま市美和文化会館

オープニング 10:00～ 2階ロビー

あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

親子で参加 ワークショップ

① 漫画家体験しよう！

あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

② 森のめぐみで小物づくり！

あま市教育委員会が主催するあま市家庭教育支援協会があります。

主催 あま市教育委員会 協力 愛知学院高等学校 特別協力 美濃町立図書館 052-480-6070

健康ガイド

あま市民病院だより

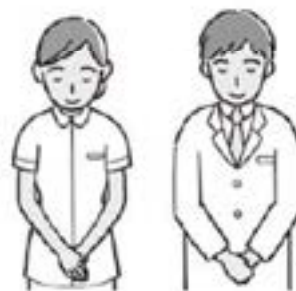
令和6年最初の広報あまにおきまして、あま市民病院から新年のご挨拶をさせていただきます。公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とした公設民営方式の経営になって5回目の新春を迎えました。本年は医師の働き方改革を実践する年であり、すべての勤務医は、これまでのような無制限の長時間労働は行うことができなくなりました。あま市民病院においても、夜勤後の医師が引き続き診療することが難しくなるため、皆様にもご理解をいただく必要がある場合が生じるかと思いますが、よろしくお願いたします。

令和5年10月1日には、歯科口腔外科を標榜し「地域包括ケアの拠点」として、近隣の歯科医院との連携を高める体制を構築しています。歯科医師や歯科衛生士による手術前や急性期を越えた回復期における口腔衛生は、医療の質を確実に向上させます。栄養サポートチームと協力して栄養管理や嚥下訓練に取り組みます。本年1月からは、整形外科、泌尿器科、婦人科、外科、眼科に加えて、歯科口腔外科の手術も始まる予定です。

また「市民の健康づくり」のために、健診センターをヘルスプロモーションセンターに改称しました。健診や検診だけでなく、予防接種にもさらに力を入れます。健康教室、市民公開講座を院内外で行い、禁煙外来、フレイル外来などの専門外来を設置していきます。

あま市民病院のもう一つの目標である「災害に強い病院になる」ためには、日常の診療能力を高めると同時に医療資材や日用品などの備蓄を持ち、有事に備えた実践的な訓練を行う必要があります。令和5年9月には、日赤あま奉仕団10人と美和高等学校の学生19人の方々に模擬患者のボランティアをお願いして、被災した患者を重症度によって振り分けるトリアージ訓練を行いました。本年は、さらに進歩した防災訓練に取り組みたいと思います。

今年度も、これまで培ってきた診療能力を生かし、地域医療に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



管理者 梅屋 宗

地域医療振興協会

あま市民病院

～市民と連携密着に信頼され、健康と安心を提供する病院～

〒490-1111 あま市若日寺鞋田1番地

開診時間：午前8時30分～午後5時

(土・日曜、祝日を除く)

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>



◆◆あま市民病院Facebookのご紹介◆◆

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>

美和高マインド

地域活動レポート

令和5年度1学期号

練習風景



わんぱく相撲



国府宮神社 御田植祭



6月11日（日）

今年度、あま市が担当する国府宮神社はだか祭での大綱奉納に先立ち、あま市内で御田植祭が行われ、美和高生が早乙女と同様えの歌の歌い手として参加しました。当日はあいにくの雨でしたが、立派に役割を果たしてくれました。

5月20日（土）

昨年度に引き続き津島市鐘成館で開催された「わんぱく相撲」の運営ボランティアに参加しました。設営や組業にも関わりました。

ごみゼロ運動



6月18日（日）

あま市美和文化会館でバブリーたまみさんによる「子育て講座＆コンサート」の運営ボランティアに参加しました。



4月29日（土）

あま市内で開催された「あま市ごみゼロ運動」に部活動生員が参加しました。本校周辺の通学路を中心にたくさんのごみを拾いました。

今後の予定

- ・あま市女性活躍情報誌 市民記者（7月～9月） 募集終了
- ・七宝焼き講座 講座補助（7月22日） ※募集中
- ・七宝焼き「きっず七宝探偵団」バス視察補助員（8月29日） ※募集中
- ・あま市文化祭 運営ボランティア（11月） ※募集中
- ・つなぐ市場 運営ボランティア（7月・12月・3月の第2日曜日予定） ※募集中

※募集中の活動について、興味がある人は 総務部（加藤博・土屋・吉原・中田）まで申し出てください。
※2学期の上記以外の活動については、夏休み明けに募集を開始します。

応募、持って来～ず！



【告知】 これまでの地域活動を礎に 令和7年度から 美和高校に「地域社会学科」が開設されます

【地域活動レポート②（本校発行）】

地域活動レポート

美和高マインド

令和5年度2学期号

さっず七宝探偵団



7月～9月
女性活躍情報誌の市民記者として、取材活動を行いました。インタビューしたり、記事を書いたり、普段はできない経験をおさえていただきました。

**女性活躍情報誌
市民記者**



あま市文化祭



夏休み期間中
7月・8月に七宝境アートヴィレッジで開催された「さっず七宝探偵団」にて、講座運営ボランティアに参加しました。七宝境体験や校外学習をお手伝いしながら、参加した小学生と一緒に、楽しい時間を過ごしました。

**あま市民病院
トリアージ訓練**



11月4・5日（土・日）
あま市文化祭に、交通部・美術部・陸上部（運営ボランティア）が参加しました。

**あま市民病院
トリアージ訓練**



9月30日（土）
あま市民病院にて、トリアージ訓練に参加しました。患者役のボランティアとして演技しながら、災害医療の現場を疑似体験し、将来医療の道を希望する生徒にとって、よい学びの場となりました。

イルミネーション・フェスタ



10月15日（日）
美和文化会館にて、イルミネーション・フェスタに向け、取材のボランティアに参加しました。

今後の予定

- ・放課後子ども教室 イベントボランティア（12月）
- ・ウインターコンサート運営（12月）
- ・蟹江川クリーンコミュニケーション（1月）
- ・親子ふれあいデー 講座運営ボランティア（2月10日） **※募集中**

※募集中の活動について、興味がある人は 総務部・地域活動担当 まで申し出てください。
※2学期の上記以外の活動については、冬休み明けに募集を開始します。応募、お待ちしております！



【告知】 これまでの地域活動を礎に 令和7年度から 美和高校に「地域社会学科」が開設されます

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

^{みわこう} ^マ ^イ ^ン ^ド
美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

発行日 令和6年3月

発行者 愛知県立美和高等学校

〒490-1295 愛知県あま市篠田五ツ藤1番地

電話 052-443-1700 FAX 052-442-3917

